北九州市立障害者施設　指定管理者検討会　会議録

１　開催日時　　令和８年９月２８日（月）１６：００～１７：００

２　場　　所　　北九州市役所　本庁舎　５階　特別会議室Ｂ

３　出 席 者　　（検討会構成員等）伊野構成員、門田構成員、
髙橋構成員、田村構成員、森構成員
（事務局）　　保健福祉局障害福祉部長、障害者支援課長、
障害福祉施設係長、他１名

４　議　　題
戸畑障害者地域活動センターに係る指定管理者候補の選定審査【一般公募施設】

５　会議内容
○ 構成員の互選により、座長を選出
○ 当日の配布資料・議事次第等について、事務局から説明
○ 指定管理者候補の選定基準、採点の注意事項等について、事務局から説明
○ 申請団体から提案概要に関してヒアリングと質疑応答
（構　成　員）職員の勤務時間について、正規が週３９．９時間、嘱託が週４０時間という勤務時間の違いは何か。嘱託は希望によるものなのか。他の方との差があるのか。また、年間３０６日開所しているということだが、急に休みになったり仕事になったりすることはないのか。
（申 請 団 体）勤務時間については、当法人は４週６休制度となっており、１日７時間１５分の勤務になるので、トータルでいうと１週間で４０時間弱となる。パート職員に関しては、本人の働き方を優先して、週２０時間や３０時間などとしている。嘱託職員に関しては、資格がなく福祉事業が初めてという方を中心に中途で雇う時に嘱託でお願いすることもあるが、一番多いのは再雇用の方となる。６０歳を過ぎて再雇用の時に嘱託職員になる方が多い。年間３０６日開所については、前々月に利用者や家族に翌々月の利用予定日数や何を利用したいかを記入してもらい、その中で職員配置を決めている。
（構　成　員）２か月前にきちんと決めているのですね。ノーリフトケアも積極的にされていて素晴らしいと思った。Ｂ型利用者の公平公正な工賃評価の概要とお仕事掲示板に興味を惹かれたのだが、どのようなものか。
（申 請 団 体）工賃評価については、当法人の就労センターと同一のものを使っているが、基礎力と応用力に分けて評価している。基礎力は仕事に

取り組む時に挨拶ができるか、報連相（報告、連絡、相談）ができるか、体調管理がちゃんとできるかというところ。応用力は実際に作業にどれだけ貢献できるかという二つの柱で年２回評価し、職員で会議を行って工賃にあてはめる方法を採っている。お仕事掲示板は、生活介護事業で平成２２年から実施している。生活介護の方は介助を受けることがメインになるが、「本人のできる力で何かお手伝いを」ということでお仕事掲示板を始めている。利用者に今日やりたい取り組みを立候補してもらい、実際に取り組んだことに応じてポイントを付けていく取り組みである。

（構　成　員）Ｂ型就労の件で、普通は月額工賃１万５千円から２万円のところをこちらは２万２千円ぐらいまでということで大変頑張っている。しかし、法人の他の事業所では３万３千円ぐらいのところがあるが、この違いは基礎的な仕事が多いということか。

（申 請 団 体）同じ法人でも受けている仕事の内容が全く違い、また利用者もこなせるものを状況を見ながら選んでいるところがある。私達はできればもっと高くとは思うが、受注の仕事の関係でそこまで達してはいない。ただし、この４年間で１万円以上アップしており、今後も年間でアップしていく計画に基づき、生産の売上計画を立てているところである。

（構　成　員）大変努力されており、賃金を新しいものに変えるなど熱心に行っていると感じた。自立訓練は定員６名に対して実績１．３名となっており、そのあたりは地域に声掛けして集めることが大変ということなのか。

（申 請 団 体）自立訓練事業は決められた定員６名と実績を比較しており、年度によっては、登録者が多く平均３人にいくこともあるが、基本的にはひきこもりであったり、精神的な疾患から毎日利用が難しい方もたくさんいる。現在の登録は５人だが、月平均で見ると３人まではいかず、週に１、２回頑張って来れたかなというところである。また、有期限であるため、その方達が卒業したタイミングで新しい方が必ずしも入ってこない時があり、年度によって状況が変わるので、経営的に自立訓練はとても難しいと思っている。

（構　成　員）そこが少し大変なんだろうなと感じた。

（申 請 団 体）福祉のファーストステップというか、まだ福祉に関わったことない方が、自立訓練の中で自分の進路について考える時間を持ったり、個別にプログラムの展開ができるので、その人に合ったオーダーメイドの支援ができていくことになる。実際の登録者は少ないが、次に繋がるものを一緒に考えていくためには必要な事業だと思っており、何とか経営にのせていきたい。

（構　成　員）私が知り合った方でも、ずっとひきこもりの方がおり、そういう方に手立てをしていただく、親御さんが８０歳を過ぎて今後のことを考えそのようなことを見つけ出すのは大事な作業になるかと思う。もう１点確認したいが、「地域外の方がいたので、仕方がないからお

断りした」という件があったと思うが、送迎する上で地域は決まっているのか。

（申 請 団 体）効率的な送迎ルートを考えると、曜日などがマッチしない場合は、変更が可能になるまで待っていただく。かなり遠方の方であれば、就労事業の場合は、送迎の職員や車両の関係で、その方の近くの事業所を探す手伝いや提案をしている。

（構　成　員）地域性があるため、私もそのように考える。

（構　成　員）今回の提案の中で利用者への支援を個別にカスタマイズしていくという話と、職員の研修についても個別に計画を立てていくということで、計画を立てるプロセスやＰＤＣＡを回すプロセスにおいて、中間管理職やメンターに相当するような職員の方への負荷がすごく強くなってしまうのではないかと思うが、そのあたりはいかがか。

（申 請 団 体）中間管理職が職員と常にコミュニケーションを取りながら計画を立てている訳ではないが、職員に負荷がかかるところは、私達、中間管理職も当然入っていき、なぜそこで負荷がかかるかを一緒に考える。そういう役目や役割だということでやっている。

（構　成　員）ＩＣＴを積極的に活用し、アプリなどを使っているということだったが、特に個別支援計画などを立てて、どのように評価し、修正していったかが記録されるだけなのか。データベースとして次の方の計画のベースとなるよう共有されるのか、それとも完全に個人の経験として蓄積されるだけかによって、先ほどの負荷の部分が変わってくるのかなと思う。ＩＣＴの利用、今風のＤＸみたいな観点で言った時に、今までの支援計画や支援プラン、その結果はデータベースなどにされているのか。

（申 請 団 体）支援記録アプリ「フォンログ」を使っており、記録の中で日々の活動や支援計画に基づく取り組み、会議、モニタリングなどを項目ごとに入れられるようになっている。それを実施した後、担当者が記録に残し、翌日には業務日誌でみんなに反映されるようになっている。「誰々の支援はモニタリングしたらこうだった」、「こういう見直しをした」ということが職員全員に行き渡るようになっており、共有はされていると思う。

（構　成　員）次に活かすところがもう少し課題と理解した。提案書１５ページあたりに満足度向上の取り組みがいろいろと書かれている。どんどん利用者の満足度が上がっていくような計画なのかと思っていたら、８５％ずっと一定というあたりは、相場感としてここが業界のマックスというイメージなのか。それとも、少し安全策を採ったということか。

（申 請 団 体）直近の満足度は９２％や９７％と高かったので、それに合わせることも考えたが、調査する年度やタイミング、回収率によって満足度に大きな差があり、直近の実績を参考に高い目標とするのはリスクがある。このぐらいだと私達も頑張れるという落とし所であった。

（構　成　員）その正直さが良いのだろうなとは思う。提案書の中にＱＲコード

を付けていただいており、インスタグラムの動画を拝見した。目標に合わせて、月１２回などすごくアップされているが、法人のホームページからはそのインスタを見れず、もったいないと思った。ＳＮＳや広報は、利用者や家族にこんなことをやっているよと知らせるためのものなのか。それとも利用者を増やすためのものなのか。職員を募集するためのものなのか。福祉事業や福祉に対する啓蒙的な意味合いなのか。これらによって、位置付けは変わると思うが、せっかくやっているので、ホームページからこんなことをしているのが見えたりしたらと良いと感じた。

（構　成　員）ＩＣＴについては、アプリであったり、連絡帳の代わりにＬＩＮＥであったりなど、そういったいろいろと最新の支援を活用しており、本当に素晴らしい。また、余暇や楽しみの部分でデジタルのリハビリテーション、デジリハ的なもの、インスタや様々な動画などを拝見させていただいた。そのような部分と、支援として難しいと思われる強度行動障害のある方への支援強化という部分について、もう少し話を聞かせてほしい。

（申 請 団 体）２０２０年８月から強度行動障害者の支援を当センターで始めている。もともと自閉・他害のある方が結構多くいたため、職員が安全に対応するためと他の方へケガがないようにするため、マンツーマン（１対１）で支援していた。しかし、その方が将来グループホームや入所施設に入る時、常にマンツーマンというのは現実的ではなく、どうしたら良いかと考えた。法人で放課後等デイサービスを立ち上げた時、重度の児童をサポートしており、その仕組みを参考にして、私達もマンツーマンではなくて、その人らしい時間の過ごし方や活動をしていこうということを２０２０年から始めている。職員には基礎研修や実践研修を計画的に受講してもらい取り組んでいるが、１日を通じて、また曜日ごとに利用者の組み合わせが違うため、目指したようには実践的にできていないところが課題であるものの、他害や特に職員の労災に関しては劇的に減ってきている。あと、親御さんとのやり取りの中で、こういう取り組みを進めているという話をすると、家族の方も安心して過ごされているということが見えてきた。まだ道半ばであり、法人の放デイの児童をがっちりこちらで受け入れられるかというと、まだまだ少しハードルが高い。ただし、今は利用者が一人ひとり、少しずつ時間を自分の課題に向き合って取り組みができるようになってきており、そういったところは今後も続けていきたい。また、ＩＣＴの導入に関しては、職員は送迎も含めた事務業務があり、机に座って何かをする時間がないのが現状であるため、スマホでできる支援記録をどんどん導入するとともに、インカムや去年ではＡＩカメラを導入して、私達が目視できなかった転倒の原因やトラブルの原因をカメラを通して録画を見て、すぐに次の対応ができるようになった。利用者の安全と職員の負担軽減のため、できるだけＩＣＴを今後も取り入れてい

こうと思う。

（構　成　員）本当にいろいろな取り組み、地道な取り組みをされるとともに、魅力あるプログラムの展開ということで利用者主体を掲げている。「選ぶ、楽しむ、特別感の提供」もすごく素敵な言葉だと思うが、選ぶということに関して、意思疎通がかなり難しい方もいると思われ、どのように対応しているのか。

（申 請 団 体）生活介護の利用者に対して、職員が個別支援計画に基づき目標を設定し、一人ひとりにポイントカードを作っている。ポイントが貯まったら、多くの利用者にあてはまるような身の回りの靴下やタオルから感覚遊びができるようなものなど、いろいろなグッズを箱の中に入れて、意思疎通が難しい利用者でもパッと手に取ったりとか、選んでもらう経験をしていただいている。あとは、日帰りバスハイクなども３か所ほど設定して、視覚的にどういった場所かが分かるように、例えば食べ物だとか、海峡館だったらイルカだとかをフロアの中に掲示して、利用者になるべく自分で選んでいただいている。それを家族に報告して調整したり、なるべく選ぶという経験ができるように支援している。

（構　成　員）利用者に分かりやすく、視覚的であったり、具体的な掲示をしている。利用者にもいろいろと選ぶ経験をしてもらうということで、本当に素晴らしい。

（構　成　員）利用者の意見把握の中で提案箱の設置というものがあるが、実際に提案箱が活用されているのか。もし投函されているのであれば、どのような内容の提案があるのかを教えてほしい。

（申 請 団 体）提案箱は事務室の前に一年中、置いているが、ほとんど入ってることがなく、あまり活用されていない。利用者は意見があれば市が実施するアンケートの方も使えることを知っているので、結構そちらで意見を反映させている。また、昨年度から事業所独自にアンケートを取っており、その中でも意見を反映させている。給食も年２回実施しており、その中で意見をできるだけ聞くようにしている。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。その後、構成員全員で意見交換。

（構　成　員）提案書にもう少し詳細が書いてあると分かりやすかった。自分達には分かるお仕事掲示板やポイント制度はこういうことだと記載してあると分かりやすかった。全体的にすごく頑張っているのが伝わり、好印象を持った。社会貢献も様々なところでされているのを拝見するので、頑張っていると思う。利用する方がセンターについて嬉しそうに話しているのを見聞きするので、職員の方が心から親密に関わりを持って接してくれているのだと思う。皆さんきちんとされているといつも思っていた。今日はいろいろな話が聞けて良かった。

（構　成　員）収支の安定が結構あった。収入で加点のところが細かく書かれているため厚労省の書類を見たところ、細かく定められており、それに沿って行うのはかなり高度な事業所だと思った。また、一人ひとりに寄り添う姿勢が読めた。自立訓練の定員６名に対して利用者が少ないところは少し気になったが、利用者を探すことも難しいと思うので致し方ないところと感じた。全体的にいろんな面で考えられている。情報収集にも心掛け、電子データについても細かい定めがある。そしてその運用は、職員１人でなく必ず２人以上で確認しているところは大事であり、そのあたりも好印象であった。

（構　成　員）長年、福祉事業に携わってこられ、このセンターも指定管理者として長く携わっていく中で、よく言えば安定的に手堅く、逆に言えば少しチャレンジがないのかなというあたりが少し気になるところではあるが、指定管理者としてセンターを運営していただく、継続していただく分には問題ないと考えている。

（構　成　員）長年培われてきた実績があり、運営に関してしっかり考えられている。私が分からない分野であるが、加算について細かく書かれてあった。何かそういうところを細かく書いてきたものを見たことがあまりなかったので、地道な努力をされていると感じた。それが国の方針で毎年どんどん変わったり、何年か１回見直しがあったりと、大変苦労をされているんだろうと感じた。質問はしなかったが、生活介護での３０６日の開所を行っていくことを大丈夫と述べていたが、運営する努力も大変なものだろうなと感じた。私も１５年、２０年近く前にセンターを見学したことがあり、あまり事業内容は変わっていないということなので、地域との関わりなどもあまり変化を持たせていないのではないかと思う。安定的ではあるが、利用者がその部分で時々飽きたりしていないかななどと少し感じた。ただし、昨今のＤＸであったり、ＩＣＴの活動や活用であったりと、様々なところにチャレンジをしていると感じている。運営するにあたって特に異論はなく、大丈夫ではないかと思う。

（構　成　員）利用者満足度について、令和７年度の実績は９０％を超え、５年間の目標数値が８５％と、そういう意味で満足度が高いということはやはり大きいと思う。一方で強度行動障害の方々の利用者を受け入れながら、職員研修を行い、支援の充実を図ろうというところが、とても良いところだと思った。利用を想定していた提案箱の活用がほとんどないまま設置しているというところは、正直な報告だったかと思うが、皆さん述べたように、長年の経験があり、取り組んできた実績と成果もとても大きいものがあったので、適正かと思う。

○ 検討会としての評価レベルを決定。また、「付帯意見なし」と決定。

評価レベルは、指定管理者としての適正（１）管理運営の理念、基本方針は４、（２）人的・財政基盤は４、（３）実績・経験は４、管理運営計画の有効性（１）

設置目的の達成への取組は４、（２）利用者の満足度向上は４、管理運営計画の効率性（３）指定管理料及び収入は４、（４）収支計画の妥当性及び実現可能性は４、管理運営計画の適正性（５）管理運営体制は４、（６）平等利用等は３、（７）社会貢献・地域貢献は４に決定。

○ 検討会を終了